

健康被害 予防事業だより

No.
45

INDEX 目次

■公害健康被害予防事業の概要	1
■平成24年度事業実績及び平成25年度事業計画	2
●助成事業	2
●ぜん息患者等のニーズに基づいた事業	5
●知識の普及	7
●研修	8
●調査研究	9
■情報提供	裏表紙



独立行政法人環境再生保全機構

ERCAとは、Environmental Restoration and Conservation Agency の頭文字を取った環境再生保全機構の略称です。

公害健康被害予防事業の概要

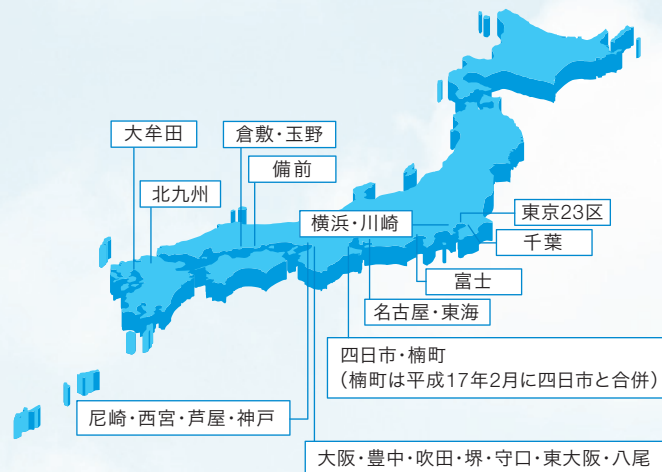
公害健康被害の補償等に関する法律は、本来当事者間で民事上の解決が図られるべき公害健康被害について補償を行い、公害健康被害者の迅速・公正な保護を図ることを目的として昭和49年9月に施行され、著しい大気汚染が生じ、その影響により気管支ぜん息等の疾病が多発している地域を第一種地域として指定しました。昭和63年3月に、大気汚染の状況の変化を踏まえ、第一種地域の指定が解除され、個人に対する補償から、公害健康被害予防事業の実施など、地域住民の健康被害の予防に重点を置いた総合的な環境保健施策が推進されるようになりました。

公害健康被害予防事業は、大気汚染の影響による健康被害の予防に寄与するために実施しており、これにより地域住民の健康の確保を図ることを目的としています。

公害健康被害予防事業を実施するために必要な費用は、事業者等から拠出された拠出金及び国からの出資金により基金を設け、その運用益により賄うこととされています。事業は、機構が自ら行う事業（直轄事業）と地方公共団体が行うものに対し助成

する事業（助成事業）からなっています。助成事業の対象地域は、旧第一種地域41地域と、これに準ずる地域として定められた6地域の計47地域です（下図参照）。

なお、平成20年度より、環境省から自立支援型公害健康被害予防事業補助金が交付されています。



公害健康被害予防事業

機構が自ら行う事業（直轄事業）

■調査研究

- 大気汚染による健康影響に関する総合的研究
- 局地的大気汚染対策に関する調査研究

■知識の普及

- 講演会、講習会の開催
- ホームページ、パンフレット等による情報提供
- ぜん息・COPD電話相談室の運営
- ぜん息児水泳記録会の開催 等

■研修

- 地方公共団体が行う公害健康被害予防事業の従事者等に対する研修

地方公共団体が行うものに対し助成する事業（助成事業）

■ソフト3事業

- 健康相談事業
医師・保健師等によるぜん息等に関する相談・指導
- 健康診査事業
乳幼児を対象とした問診等によるぜん息の発症予防のための指導
- 機能訓練事業
ぜん息児等を対象とした水泳訓練教室、音楽訓練教室、ぜん息キャンプ

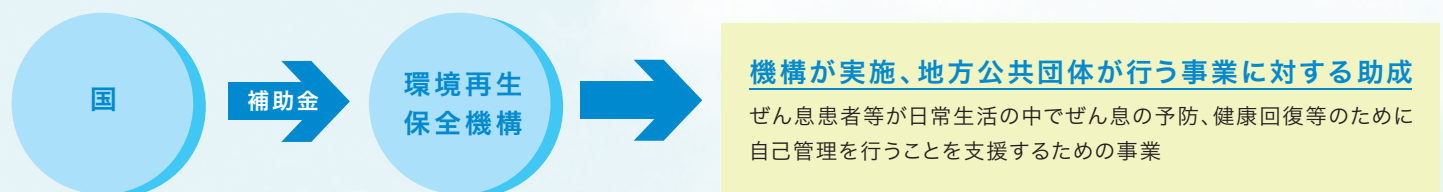
■計画作成事業

- 地域の大気環境改善のための計画作成への助成

■施設等整備（助成）事業

- 医療機器整備（助成）事業
- 大気浄化植樹（助成）事業

自立支援型公害健康被害予防事業（平成20年度より実施）

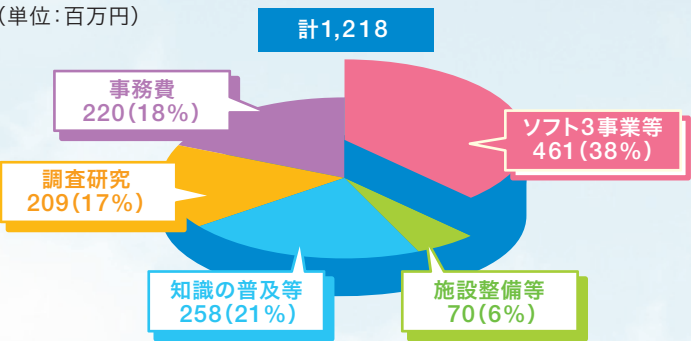




平成24年度事業実績及び平成25年度事業計画

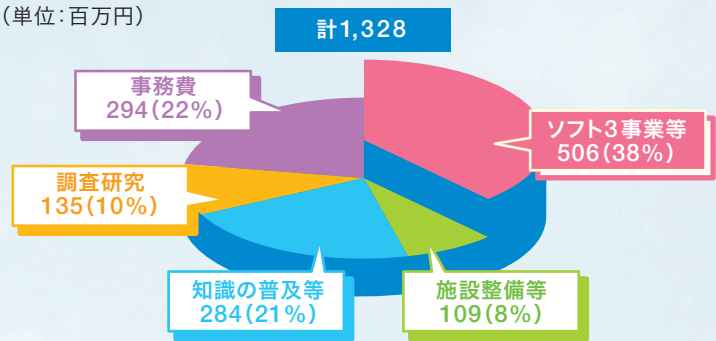
平成24年度実績額

(単位:百万円)



平成25年度計画額

(単位:百万円)



※割合については、小数点以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合があります。



助成事業



ソフト3事業



地域住民のぜん息等の発症予防、健康回復に直接つながる事業に重点化を図る観点から、助成事業では、**ソフト3事業(健康相談事業、健康診査事業及び機能訓練事業)**に対して重点的に助成を行っています。

健康相談事業

地方公共団体において、医師や保健師、栄養士等による地域住民の方々を対象としたぜん息等に関する相談事業を行っています。講演や実技指導を伴う集団教室や集団相談、個別相談、家庭訪問指導等の事業があります。また、事業の実施にあわせて、

気管支の状態を客観的に把握することができるピークフローメーターの支給や貸与、ぜん息薬の吸入を補助するネブライザーの貸与等も行っています。



- 基金事業
- 集団相談 ●集団による健康教室等
- 自立支援型
公害健康被害予防事業
- 個別相談 ●家庭訪問指導
●ピークフローメーターの支給・貸与 ●ネブライザーの貸与

事業規模	年度	事業実施 地方公共団体数	相談参加者数 (人)	家庭訪問指導者数 (人)	ピークフローメーター (個)	ネブライザー (台)
	平成25年度(計画)	44	15,021	429	115	105
	平成24年度(実績)	42	11,171	352	70	95

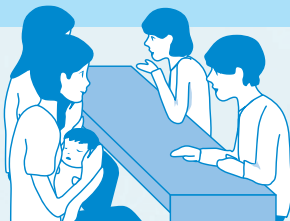
事業費

平成25年度:68,253千円 (平成24年度実績:52,523千円)

健康診査事業

地方公共団体における乳幼児健診の機会等を利用して、保健師・医師等の問診・診察等により乳幼児のアレルギー症状の有無等を把握し、ぜん息の発症リスクが高い乳幼児に

ついては発症予防のための適切な指導等を行っています。



- 基金事業
- 健康診査 ●血液検査
- 自立支援型
公害健康被害予防事業
- 健康診査により把握されたリスク児に対する指導 ●ピークフローメーターの支給・貸与 ●ネブライザーの貸与

事業規模	年度	事業実施地方公共団体数	指導対象リスク児スクリーニング者数(人)	血液検査受診者数(人)
	平成25年度(計画)	26	154,925	630
	平成24年度(実績)	26	173,115	454

事業費

平成25年度:162,864千円 (平成24年度実績:145,644千円)



機能訓練事業

ぜん息患者の健康の回復、保持、増進、日常生活における自己管理支援等を目的に、地方公共団体において、医師による健康管理のもと、水泳訓練教室や、吹奏楽器等を用いて楽しみながら腹式

呼吸法を体得させる音楽訓練教室、療養生活上の指導を行い、体験を通してぜん息に関する知識や日常生活における自己管理の方法を自ら身に付けるためのぜん息キャンプ事業を行っています。

基金事業

●15歳未満の者に対する水泳訓練教室、音楽訓練教室、ぜん息キャンプ

自立支援型

公害健康被害予防事業

●15歳以上の者に対する水泳訓練教室、音楽訓練教室 ●自己管理説明会、個別指導

●ピークフローメーターの支給・貸与 ●ネプライザーの貸与

事業規模

	水泳訓練教室		音楽訓練教室		ぜん息キャンプ	
年度	事業実施 地方公共団体数	参加者数(人)	事業実施 地方公共団体数	参加者数(人)	事業実施 地方公共団体数	参加者数(人)
平成25年度(計画)	33	41,150	11	1,213	23	4,593
平成24年度(実績)	33	31,479	11	437	24	3,650

事業費

平成25年度:256,162千円(平成24年度実績:234,897千円)

ソフト3事業の事業実施効果の測定・把握のための調査

ソフト3事業のより効果的な実施を図るため、地方公共団体で実施しているソフト3事業の事業対象者に対して、事業実施後と2カ月後にアンケート調査を実施し、「参加した事業に対する評価」、「行動変容(事業実施前後における事業対象者本人や家族の取組の変化)」、「知識の普及・気づき」、「事業参加前後の事業対象者及び家族の

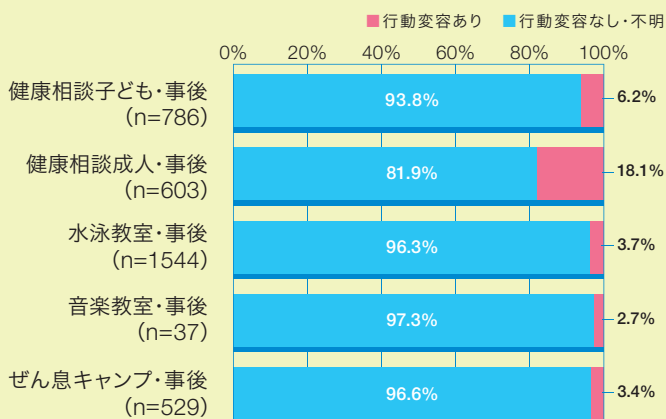
QOLの変化」、「事業対象者本人のコントロール状況の変化(症状の変化)」を評価指標として、事業実施効果の把握を行っています。

平成24年度調査の結果でも、事業参加前後の比較で、治療への取組の改善、学校等の欠席や行事不参加の減少、症状の軽減等の効果が確認されています。

行動変容

ソフト3事業に参加することにより、ぜん息の症状改善に向けた行動変容(本人や家族の意識や取組の変化)につながったかどうかについて、事後調査を実施。健康相談(成人)参加者の80%以上の方に、そのほかの事業参加者では90%以上の方に、事業参加により何らかの意識や取組の変化が見られました。

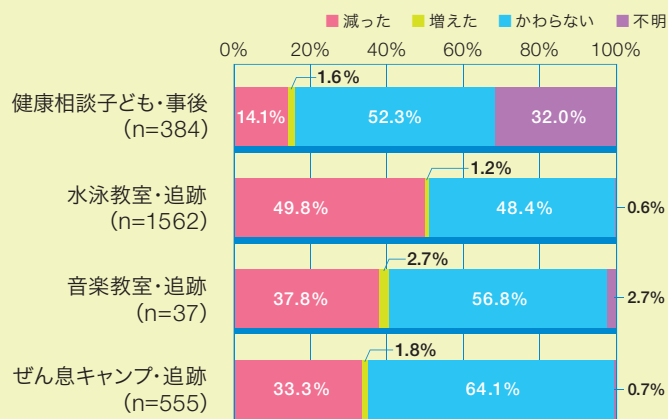
※参加者が事業参加を契機に行うようになった取組のうち、いずれか一つ以上を選んだ方を「行動変容あり」とし、その割合を求めました。



QOLの変化

事業参加2カ月後における、本人や家族のQOL(Quality of Life:生活の質)の変化に関する追跡調査において、「ぜん息が原因による幼稚園・保育園や学校等の欠席状況」を尋ねたところ、水泳教室では49.8%の方が、音楽教室では37.8%の方が、ぜん息キャンプでは33.3%の方が事業参加後、欠席が減ったと回答しました。

【QOLの変化(学校等の欠席や行事不参加の回数)】



※ソフト3事業の事業実施効果の測定・把握のための調査報告より抜粋(平成24年度調査結果:平成24年4月1日~平成25年5月末)

ソフト3事業事例集

地方公共団体におけるソフト3事業の企画・運営及び事業改善に資するために、「ソフト3事業の事業実施効果の測定・把握のための調査結果」等を踏まえて事業評価の高いもの、各市・

区における特徴のある取組や、実施上のノウハウ・工夫など、事業の計画策定にあたり参考となる事例をまとめた「ソフト3事業事例集」を作成しました。掲載事例の一部をご紹介します。

健康相談事業

プログラムを工夫している事例	水泳訓練指導や医師による講話など多様な内容のプログラムを導入。
	健康相談に肺年齢測定を導入することで参加者の肺機能への関心を高める。
連携を工夫している事例	母子保健事業や小・中学校との連携により、継続的な指導を実施。

健康診査事業

相談・指導方法を工夫している事例	問診・健診の当日だけでなく、別日にも専門医によるアレルギー相談を行うことで指導を充実化。
フォローアップを工夫している事例	乳幼児健診時のデータを基に経過を継続的に把握し、適切なフォローアップを実施。

機能訓練事業

水泳教室	指導を工夫している事例	年間を通じて教室を実施し、継続的な指導や事業運営の円滑化を実現。
	実施方法を工夫している事例	ぜん息児向けと成人向けの水泳教室を同時に開催することで、事業を効率的に運営。
音楽教室		親子それぞれへのサポートを重視したプログラムを実施。
ぜん息キャンプ	指導を工夫している事例	遊びと学びを組み合わせたプログラム構成により自己管理能力を養成。
	実施方法を工夫している事例	親子が参加できるプログラムにより、保護者への意識啓発や指導を実施。 主治医にキャンプ中の症状の経過等を報告することで、地域の医療機関の連携を強化。

大気浄化植樹(助成)事業

地方公共団体が実施する大気浄化能力をもつ植栽の整備に対して助成を行う大気浄化植樹事業と、地方公共団体が、民間事業者等に対して、大気浄化能力をもつ植栽の整備に要する経費を助成する場合に、助成を行う大気浄化植樹助成事業を実施しています。

大気浄化植樹事業は、学校や保育園、病院、老人ホーム、公民館等の敷地内で行う植樹が対象となっており、大気浄化植樹助成事業とあわせ、平成25年度は6カ所で事業が計画されています。



ぜん息患者等のニーズに基づいた事業

独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針(平成22年12月7日閣議決定)等を踏まえ、予防事業の対象者であるぜん息患者等のニーズに的確に応える事業を実施していくため、

ぜん息等の患者団体や関連学会の医学専門家、地方公共団体等へのヒアリングを実施し、そこから把握したニーズに基づいた事業を新たに実施しています。

■ ニーズ1 専門医への相談・交流機会の確保 ■

市民公開講座

日本小児アレルギー学会や日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会などの関連学会と連携を図りながら、ぜん息等の発症の予防、健康回復に関する市民公開講座を開催し、ぜん息患者やそのご家族を中心とした地域住民の方に、専門医による

ぜん息等に関する正しい知識や専門医との交流の機会を提供しています。平成25年度の市民公開講座では、専門医による講演に加え、大規模な個別相談会を実施し、両学会を通じて計86組のご家族に参加いただきました。

開催日	開催場所	共催学会
平成25年6月9日	つくば	日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会
平成25年10月20日	横浜	日本小児アレルギー学会

[平成24年度実績:参加者数 472人]



【第50回日本小児アレルギー学会
市民公開講座 講演の様子】



【第50回日本小児アレルギー学会
市民公開講座 個別相談会の様子】

■ ニーズ2 就学期のぜん息患者のサポート ■

ぜん息・アレルギーフォーラム

ぜん息等のアレルギーをもつ子どもたちが、より安心して安全に学校生活を送ることができるようにするには、学校の理解や家庭と学校との連携を進めていくことが重要です。

「ぜん息などのアレルギーをもつ児童・生徒のためのぜん息・アレルギーフォーラム」は、文部科学省や公益財団法人日本学校保健会と連携し、ぜん息等をもつ児童・生徒とそのご家族、養護教諭等の教育・保育関係者が一堂に会し、ぜん息等のアレルギーに

関する正しい知識を共有し、学校や家庭における留意点等について考える機会として開催しています。「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」(日本学校保健会 作成)の教育現場での更なる活用や、ぜん息等のアレルギー疾患の基礎知識と学校生活での留意点を中心とした講演、実技・体験を交えた講義等で、正しい知識を分かりやすく提供しています。

開催予定日	開催場所
平成26年3月を予定	名古屋

[平成24年度実績:参加者数 393人]



【平成24年度に開催した
ぜん息・アレルギーフォーラムの様子】



■ ニーズ3 (ぜん息) 患者教育スタッフの養成 ■

保育所等におけるアレルギー疾患講習会

ぜん息等のアレルギーをもつ乳幼児が通う保育所や幼稚園の職員、地方公共団体の保育関係部署の勤務者等を対象に、アレルギーに関する正しい知識の普及や「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」の現場での更なる活用を

推進するため、厚生労働省とともに講習会を開催しています。ぜん息薬の吸入手技に関する実演等も含め、アレルギーをもつ乳幼児に接する保育関係者にとって実用的な対応が図れるような内容となっています。

開催日	開催場所	開催日	開催場所
平成25年9月20日	千葉	平成25年11月8日	静岡
平成25年10月25日	岡山	平成25年12月20日	福島

[平成24年度実績:参加者数 1,024人]



ぜん息患者教育スタッフ養成研修

地方公共団体や地域のコメディカルスタッフ（看護師、薬剤師、栄養士、保健師等）を対象に、小児ぜん息患者の指導に必要な知識、技術を習得するための研修を実施しています。患者教育を通してぜん息等の患者やその

ご家族が主体的に自己管理を継続できるような指導を行い得る患者教育スタッフの養成を推進し、地域における患者の自己管理支援体制の充実を図っています。

実施予定日	実施予定場所
平成26年2月13日～14日	名古屋

[平成24年度実績：参加者数 123人]



※写真は平成24年度実施時のもの



ニーズ4 呼吸リハビリテーションを行う理学療法士等の養成

呼吸リハビリテーションスタッフ養成研修

COPDの主な症状は、せき、たんと呼吸困難であり、薬物治療は症状改善に有用ですが、呼吸困難やそれに伴う日常生活動作の低下に対しては、呼吸リハビリテーションを行うことで更なる症状の改善が期待できます。これまで機構では、呼吸リハビリテーションを専門とする理学療法士等の養成、地域における呼吸リハビリテーションの普及を図ることを目的として、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会で開催される研修会へ

研修生を派遣する形式で研修を実施していましたが、参加希望者の増加や関係機関による要望等を踏まえ、平成25年度より同学会に後援いただき、機構主催で研修を実施しました。

日程
平成25年12月7日～8日

[平成24年度実績：参加者数 35人]



【呼吸リハビリテーションに関する研修】

ニーズ5 思春期のぜん息患者を対象とする患者教育機会の確保

ぜん息児水泳記録会におけるミニ体験教室

ぜん息児水泳記録会（※）において、参加者及びその保護者に対して、プログラム開始前に医療従事者の指導の下、ぜん息に関する知識の習得や吸入手技の指導等を行うミニ体験

教室を開催したり、全員参加型のピークフローメーターの使用に関する実技指導を実施したりする等、ぜん息児の患者教育の機会としても活用しています。

※ぜん息児水泳記録会：地方公共団体が行う水泳教室に参加しているぜん息児童等（参加対象者：小中学生）を対象に、自己管理の啓発・継続を図ることを目的に開催しています。

開催日	開催場所
平成25年9月1日	大阪
平成25年10月5日	東京

[平成24年度実績：参加者数 159人（東京） ※大阪会場は台風の影響により中止]



【ピークフローメーターの使用に関する実技指導】



【ぜん息児水泳記録会】

ニーズ6 COPDに対する認知度の向上・重症化の防止

COPD啓発イベント

日本におけるCOPD（慢性閉塞性肺疾患）患者数は530万人に上ると推定されていますが、COPDは病気であると自覚しにくいと、現在、治療を受けている患者は26.6万人に過ぎず、十分な治療が受けられていないのが現状です。また、COPDは日本人の主な死亡原因の男性第7位、全体で第9位となっており、死亡者数は年々増加傾向との統計が示されています。このような現状を踏まえ、機構では世界COPDデーに合せて、COPDを広く啓蒙することを目的として、吹田市との共催に

よる啓発イベント「肺の健康診断～測ってみよう肺年齢～」を開催しました。イベントでは、肺機能測定、COPDセミナー、個別相談や体験コーナー等で医療スタッフが指導を行い、COPDについての知識を広めました。

開催日	開催場所
平成25年11月3日	吹田市



【肺機能（年齢）測定の様子】

ぜん息・COPDの予防等に関する講演会・講習会

ぜん息やCOPDの発症・悪化の防止、健康の回復等に関する正しい知識の普及を目的として、地方公共団体と共催で、患者やそのご家族をはじめ、広く地域住民の方を対象とした講演会や、地域の保健師、栄養士、保育士、養護教諭等の対象疾病の患者等の管理、指導に携わる専門職の方を対象とした講習会を開催しています。家庭や職場ですぐに実践できる内容を知りたいとのご要望を踏まえ、座学に加え、ぜん息治療薬の吸入の仕方や、ぜん息の

コントロール状態の把握の方法、肺年齢測定、呼吸リハビリテーション等に関する実演、体験、実技指導等を取り入れています。また、地域や対象者の事情に応じたきめ細かな対応を図るため、学校やケアセンターといった地域の拠点に赴いて実施する出張型の講演会・講習会という形式も開設しています。



ぜん息・COPDの予防等に関する講演会

開催(予定)日	地方公共団体
平成25年9月7日	横浜市
平成25年10月4日	横浜市
平成25年11月16日	吹田市
平成25年11月17日	富士市
平成25年11月23日	四日市市
平成25年11月24日	神戸市
平成25年12月13日	東京都
平成26年1月25日	四日市市
平成26年1月25日	江東区
平成26年1月26日	神戸市
平成26年1月31日	神奈川県
平成26年2月15日	吹田市

[平成24年度実績:参加者数 1,289人]

ぜん息・COPDの予防等に関する講習会

開催(予定)日	地方公共団体
平成25年4月26日	横浜市
平成25年4月26日	神奈川県
平成25年5月16日	世田谷区
平成25年5月24日	川崎市
平成25年6月13日	名古屋市
平成25年6月14日	神戸市
平成25年6月19日	川崎市
平成25年7月9日	神戸市
平成25年7月13日	富士市
平成25年7月18日	名古屋市
平成25年7月26日	東京都
平成25年8月2日	杉並区

[平成24年度実績:参加者数 1,656人]

開催(予定)日	地方公共団体
平成25年8月20日	神戸市
平成25年9月11日	四日市市
平成25年10月2日	世田谷区
平成25年10月16日	神戸市
平成25年11月~12月	神奈川県
平成25年12月6日	名古屋市
平成25年12月26日	大阪市
平成26年1月10日	大阪市
平成26年1月(予定)	川崎市
平成26年1月31日	名古屋市
平成26年2月(予定)	静岡県

大気環境の改善に関する講演会・講習会

地方公共団体が推進するエコドライブ等の大気環境の改善に資する施策に関する情報を提供することにより、地域の大気環境の改善に関する知識の普及や、大気環境にやさしい行動の促進を図ることを目的として、地方公共団体と共催で、大気環境の改善に関する講演会・講習会を開催しています。

事業者や地域住民の方を対象に、講義が中心の講演会、実技や体験学習を伴う講習会と、地域の実情に応じた対象者と形式により行っています。



大気環境の改善に関する講演会

開催(予定)日	地方公共団体
平成25年5月18日	神戸市
平成25年9月29日	四日市市
平成25年11月6日	北九州市
平成25年11月20日	大阪府
平成25年11月22日	名古屋市
平成25年12月12日	三重県
平成25年12月14日	倉敷市
平成26年1月28日	千葉県
平成26年1月29日	川崎市
平成26年2月19日	大阪府
平成26年2月20日	北九州市

[平成24年度実績:参加者数 1,946人]

大気環境の改善に関する講習会

開催(予定)日	地方公共団体
平成25年11月8日	倉敷市
平成25年11月22日、27日、12月3日	神戸市
平成25年11月26日	大阪府
平成25年11月27日、29日(3回)	葛飾区
平成25年11月29日	三重県
平成25年11月~26年12月	神戸市
平成26年1月16日(2回)	大阪市

[平成24年度実績:参加者数 53人]

6ページでご紹介した「ぜん息患者教育スタッフ養成研修」や「呼吸リハビリテーション指導者養成研修」の他に、地方公共団体が実施するソフト3事業や環境改善事業に従事する方等を

対象に、予防事業への理解を深め、事業実施に必要な知識・技術を理論的・実践的に修得し、事業を効果的・効率的に実施するための研修を行っています。

コース		実施（予定）日	内容
初任者研修	小児 / 成人	平成25年5月30日～31日	ソフト3事業に初めて従事する事務担当者や保健師等を対象とし、事業に必要な知識や技術を修得するため、ぜん息等アレルギー疾患、COPD等の基礎知識や患者教育の重要性についての講義、実施事例紹介等を中心とした内容としています。
機能訓練研修	ぜん息キャンプ	平成25年7月20日～21日	ぜん息等の健康回復・保持及び増進のためのぜん息キャンプ・水泳訓練教室に従事する指導員、事務担当者、保健師等を対象とし、ぜん息等の医学的知識、効果的な運動・生活指導、事業効果評価等に関する講義・実技を幅広く取り上げています。事例紹介や実際の水泳訓練教室の指導現場の体験等、現場の問題解決に直接資するプログラムも取り入れています。
	水泳訓練教室	平成25年6月19日～21日	
保健指導研修	小児 / 成人	平成25年9月4日～6日	健康相談事業、健康診査事業に従事する保健師、栄養士、事務担当者等を対象とし、ガイドライン等に基づく疾患に関する最新の知見や患者教育の理論と実践に関する講義、医療機関や地方公共団体における取組事例紹介、指導現場で役立つ実技演習等のカリキュラムから成っています。
フォローアップ研修		平成25年11月7日～8日	地方公共団体のソフト3事業に従事する事務担当者、保健師、栄養士等を対象に、ソフト3事業の事例紹介及び事例検討を中心としたカリキュラム構成とし、地域におけるぜん息患者等の療養支援に取り組むNGO等の知見やノウハウを紹介する機会も設けています。
環境改善研修		平成26年1月23日～24日	地方公共団体の環境改善事業に従事する方を対象とし、大気環境分野に関する最新の知見や国等の動向、地方公共団体の事例紹介等を取り入れたカリキュラム構成としています。

[平成24年度実績：受講者数 303人]

※上記以外に、機能訓練研修（ぜん息キャンプ）のオプション研修として、地方公共団体が実施するぜん息キャンプの充実を図るため、医療機関が開催するぜん息キャンプにスタッフとして参加し、専門の医療スタッフによる児童への指導・管理体制、各種合併症への対応方法等を直接経験する「機能訓練研修（ぜん息キャンプ体験型）」を実施しています。

小児ぜん息等アレルギー疾患 eラーニング学習支援システム

小児気管支ぜん息は、適切な治療と生活の管理を行い、良好なコントロールを維持するための患者教育が一層重要となっています。機構では、公害健康被害予防事業対象地域において地方公共団体が実施するソフト3事業等に従事する保健師、看護師等や、医療機関に勤務しぜん息等アレルギー疾患の指導に従事する看護師等コメディカルスタッフ、ぜん息等アレルギー疾患をもつ児童・生徒の指導を行う養護教諭、教職員等を対象に小児気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーにおいて、患者教育に必要な実践的な知識・技能の向上を目的としたeラーニングシステムによる学習支援を行っています。

最新のガイドラインに基づいた知識の習得が可能であり、書籍などを用いた自己学習では理解しにくい実践場面は動画や実写で補うことによって、よりわかりやすいものとなっています。受講者はインターネットが使用できる環境であれば、都合のよい時間に、くり返し学習することができます。



機構ホームページ

大気環境・ぜん息などの情報館

検索

アレルギー疾患eラーニング

調査研究

環境保健分野

予防事業の根拠となる知見の確立、事業実施効果の適切な把握及び地方公共団体が実施する地域住民を対象とするぜん息等の発症予防・健康回復に直接つながるソフト3事業の

充実・強化を図ることを目的として、以下の分野に関する調査研究を公募し、外部有識者からなる評価委員会の事前評価を経て、平成24年度より実施しています（第9期調査研究）。

分野		研究課題名	研究代表者 (敬称略)	所 属
気管支ぜん息の発症予防に関する調査研究	ぜん息発症予防のための客観的評価指標によるスクリーニング基準	気管支ぜん息発症予防のための客観的かつテーラードメイド的予知のスクリーニング基準の確立	近藤 直実	岐阜大学大学院
		ぜん息発症予防のための客観的評価指標によるスクリーニング基準	望月 博之	東海大学
		ぜん息患者の増悪及び未発症成人の発症の予測のための気道バイオマーカーの確立とその大気汚染物質の影響評価への応用に関する調査研究	滝澤 始	杏林大学
	乳幼児の早期治療、早期介入によるぜん息発症予防効果	新生児からの皮膚バリア機能保持・シンバイオティクス投与による吸入アレルギー感作・喘鳴・喘息発症の予防に関する研究	下条 直樹	千葉大学大学院 医学研究院
気管支ぜん息・COPD患者の健康回復に関する調査研究	気管支ぜん息患者の効果的な長期管理支援のための患者アセスメント手法と評価に応じた患者教育プログラム	気管支ぜん息患者の効果的な長期管理支援のための患者アセスメント手法と評価に応じた患者教育プログラム	大矢 幸弘	国立成育医療研究センター
		アレルギー専門コメディカルによる喘息・アレルギー疾患自己管理・長期管理指導の質の向上、医療の効率化に関する研究	赤澤 晃	東京都立小児総合医療センター
	就学期の患者を対象とする新たな健康相談、健康教育のあり方	就学期の患者を対象とする新たな健康相談、健康教育のあり方に関する研究	小田嶋 博	国立病院機構 福岡病院
	吸入アレルギー回避のための室内環境整備の手法と予防効果	吸入アレルギー回避のための室内環境整備の手法と予防効果	福富 友馬	国立病院機構 相模原病院
	客観的指標によるぜん息コントロール状態の評価	気道炎症、気流閉塞、および気道リモデリングに関するそれぞれの客観的指標を用いたぜん息コントロール状態評価法の確立	石井 幸雄	筑波大学
		客観的指標による喘息コントロール状態の評価	大田 健	国立病院機構 東京病院
		小児ぜん息の病態とコントロール状態を反映する新しい客観的評価手法確立に関する研究	藤澤 隆夫	国立病院機構 三重病院
	COPDのセルフマネジメント教育プログラムの開発及び効果的な介入方法	タブレットPCを用いたCOPD患者のセルフマネジメント教育システムの開発と効果的な介入方法に関する調査研究	植木 純	順天堂大学
	呼吸リハビリテーションの実践及び客観的評価手法	呼吸リハビリテーションの実践及び客観的評価手法に関する研究	千住 秀明	長崎大学
	気管支ぜん息の動向等に関する調査研究	気管支喘息患者の予後と変動要因に関する調査研究	谷口 正実	国立病院機構 相模原病院

環境改善分野

局地的な大気汚染地域の大気汚染の改善に関する調査研究を公募し、外部有識者からなる評価委員会の事前評価を経て実施しています。

研究課題名	実施機関
大気浄化植樹事業の効果の把握及び効果的推進のための調査研究	株式会社ブレック研究所
大気環境改善のための費用対効果分析を活用した排出コントロール戦略に関する調査研究	株式会社環境情報コミュニケーションズ
局地汚染地域における重点対策地区設定手法に関する調査研究	株式会社数理計画

調査研究結果と活用事例

環境保健分野、環境改善分野ともに調査研究成果を調査研究成果集としてとりまとめるとともに、機構ホームページ「大気環境・ぜん息などの情報館」に掲載しました。また、

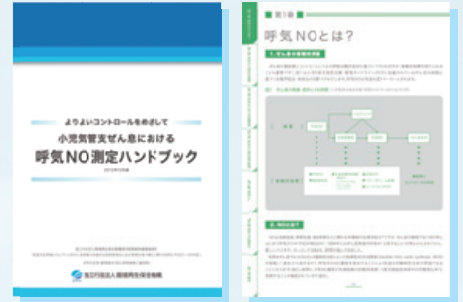
調査研究結果を事業等で活用するため、パンフレット、マニュアル等にとりまとめたものを事業等で活用しています。

小児ぜん息における呼気NO測定ハンドブック

気管支ぜん息は気道の慢性炎症性疾患であり、薬物療法の基本は気道炎症の抑制にあります。これまでの治療の指針は主に症状だけに基づくものでしたが、最近、新しい検査法が開発され、ぜん息の病態をいろいろな側面で客観的に評価することが可能となってきました。その中で、注目されているのは、呼気NO（一酸化窒素の濃度のモニタリング）です。

呼気中のNO濃度を測定することで、気道炎症の状態を把握することができるので、ぜん息の診断と治療の参考になります。近年、簡便に卓上で測定できる小型の機器が利用可能となったことを受けて、当機構では平成23年度から「気道炎症評価にもとづく

小児ぜん息患者の効果的な長期管理法と自己管理支援の確立に関する研究」を行い、呼気NOの小児基準値と臨床応用方法についての研究成果をもとに、呼気NO測定ハンドブックを作成しました。当ハンドブックは呼気NOの測定の意義、方法、結果の解釈、そして検査としての限界について、わかりやすくまとめています。



機構ホームページ

大気環境・ぜん息などの情報館

検索

パンフレット

環境再生保全機構の調査研究における制作物

燃費管理システム活用によるエコドライブの推進

「一般ユーザーに対するエコドライブの普及による大気汚染の改善手法に関する調査研究」の研究成果を基に、燃費管理システムを活用したエコドライブの推進方法を紹介するパンフレットを作成しました。



燃費管理システムを構築した企業のエコドライブ推進実証実験成果事例

企業情報

マイカー通勤者数	約11,000人
推進プロジェクト名	「安全・エコドライブ運動」
実験概要	マイカー通勤者を多く抱える拠点・工場を重点的に、具体的なエコドライブ推進活動を実施

実証実験における成果

- ① 通勤車両の燃費向上率 **4.74%向上** (平成23年度調べ)^{※1}
- ② マイカー通勤時の交通事故件数 **45%減少**^{※2}
- ③ マイカーの継続的な燃費管理の仕組みと燃費データベース構築

※1 2つの推進拠点における調査年度と過年度の燃費データを対比

※2 2つの推進拠点における本システム導入前と導入後の加害事故数を対比

機構ホームページ

大気環境・ぜん息などの情報館

検索

パンフレット

大気環境関連

ぜん息やCOPD、大気環境を改善するための取組等に関する最新の情報を、パンフレットやホームページを通じて提供しています。

パンフレット

思春期にぜん息の君へ 2013年改訂版

思春期におけるぜん息では、ぜん息の管理が親から本人に移行し、アドヒアランスの低下などの問題が増加する時期です。ぜん息の病態をよく理解し対応することがぜん息の治療や自己管理のうえで大変重要です。この冊子は、ぜん息を持つ方だけでなく、保護者や周囲の方、医療関係者が読んでもよくわかるように工夫して作成しました。(平成25年7月発行)



ぜん息学習帳

ぜん息児のアドヒアランスや自己管理意識の向上を支援するために、ぜん息児自らぜん息に関する正しい知識を身に付けながら学ぶ学習教材(紙媒体及びウェブコンテンツ)です。ファイリング形式のため、必要な部分を抜き出して使用する等の柔軟な使い方が可能です。(平成25年9月発行)



すこやかライフ No.42

ぜん息・COPDの予防と健康の回復に役立つ最新の医学情報、調査・研究情報、地域の先進的事例などを掲載した情報誌を定期的(年2回)に発行しています。最新号では、「長引くせきにご用心!」をテーマにした特集記事や、「食物アレルギーのための知っておきたい食品表示の見方」等を紹介しています。(平成25年9月発行)



大気環境・ぜん息などの情報館

検索

パンフレット

お電話で申し込まれる場合は 044-520-9568

FAXで申し込まれる場合は 044-520-2134

ホームページ「大気環境・ぜん息などの情報館」

ぜん息・COPDに関する最新情報や大気環境改善に関する情報については、ホームページ「大気環境・ぜん息などの情報館」でも提供しています。ホームページでは、パンフレット類の申し込みや、予防事業として実施する講演会等の開催情報の確認等も行うことができます。また、子ども向けのページや動画等のWEBならではのコンテンツも提供しています。



大気環境・ぜん息などの情報館

検索

<http://www.erca.go.jp/yobou/>

ぜん息・COPD電話相談室

ぜん息・COPD患者などの個々の事例に特化した相談に応えるぜん息・COPD電話相談室を設置し、看護師、専門医が相談に対応しています。

フリーダイヤル



こきゅうはい〜よ

0120-598014

受付曜日・時間

月〜金 9:00〜17:00(祝日は除く)

FAX 0120-598099

ホームページ「大気環境・ぜん息などの情報館」からメールによる相談も受け付けています。

ぜん息・COPD 電話相談室

検索



独立行政法人環境再生保全機構

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー
予防事業部管理課 TEL:044-520-9564(ダイヤルイン) FAX:044-520-2134

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙を
リサイクルできます。

